



**SMART
SURVIVAL
PROJECT**

スマートサバイバー プロジェクト

私たちスマートサバイバープロジェクト (SSPJ) は、
東日本大震災を通して得られた教訓や叡智を活かして、
子どもたちの命を守り、社会に役立つ仕組みを広め、
希望に溢れた未来を切り拓くプロジェクトを
支援していきます。

● 主な活動 ●

必要な人に必要な支援を
必要な分だけ届ける
最新のシステム

スマートサプライ



「あたらしい未来」を拓き
いのちを守る
教育プログラム

スマートアクション



やさしく、つよく、うつくしい
日常と非常をつなぐ
防具の開発

スマートプロテクター



一般社団法人 Smart Survival Project

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104 早稲田大学商学学術院11号館 TEL: 050-3825-2165

sspj.jp www.facebook.com/smart.survival.pj

代表理事：西條 剛央 (ふんばろう東日本支援プロジェクト元代表、早稲田大学大学院 (MBA) 客員准教授)

(パートナー企業：株式会社スタートトゥデイ 株式会社トヨタレンタリース栃木 栃木トヨタ自動車株式会社 石坂産業株式会社)

※SSPJの活動はパートナー企業様のご協力によって運営しております。



スマートサプライ

必要な人に必要な支援を必要な分だけ届けるシステム

熊本県西原村の子ども達に肌着や着替えを届ける熊本県の団体



「スマートサプライ」とは、東日本大震災の際に、3000か所以上の避難所・仮設住宅・個人避難宅エリアを世界中から継続的にサポートすることを可能とした、ふんばろう東日本支援プロジェクトの物資支援方法をバージョンアップさせた仕組みです。現地では必要物資の聞き取りを行い、それをインターネット上のサイトに細かく掲載することで、遠方からでも、必要な人に必要な物を必要な分だけ届けることができます。必要な物や相手が明らかにならぬため、特定の物資が過剰に集まることはなく、確実に役立っているという実感と手応えのある支援が可能となります。



ネパール・ティストゥン村にトタン板を届けた登山家・栗城史多氏(右)ふんばろうネパール)

【活用実績】 熊本地震、関東・東北豪雨災害、ネパール大震災等の際に、110プロジェクトで約44,000点の支援を実現(2016年10月15日現在)

ユーザーの声

「1クリックで被災地の方とつながり、少しでも役に立つことができても私もうれしいです」

支援者
40代女性

支援状況が「すぐに」「自動で」「わかりやすく」表示されるので便利です。そのおかげで、現地のフォローや支援後の報告に、より力を注げるようになりました。

支援団体
ふんばろう福島プロジェクト

「いろいろ支援をしてくれる世界の団体があるのは知っているが、こうやって『誰が』『何を』届けてくれるのかわかるのはうれしい」

支援された方
タリカ村村長

ピースタイムプロジェクト

災害時の緊急支援に限らず、平時(ピースタイム)から、意義あるプロジェクトも応援しています。「For Girl's Happiness」プロジェクトでは、ネパールで人身売買の被害からレスキューされた60名の女の子に3つのシェルターを設立。「小さな命の命をを考える」プロジェクトでは、東日本大震災時に大川小学校で失われたたくさんの命の意味を伝える冊子を作成しています。



通常のクラウドファンディングなどでは、ファンディングされた資金の15%程度がサイト運営側に支払われる仕組みになっていますが、スマートサプライでは全額そのまま現地の支援に使われます。

【2016年3月、スマートサプライが「第2回グッド減災賞」の最優秀グッド減災賞を受賞しました!】



スマートサプライで支援するには

■WEBサイト <http://smart-supply.org>



スマートアクション

「あたらしい未来」を拓き、いのちを守る教育プログラム



愛知県春日井市で開催した
防災ママカフェの様子

SSPJでは、特別講師を全国の学校、地方自治体等に派遣し、「自分と大切な人のいのちを守る」教育プログラムを、講演やワークショップ形式で提供。講師は東日本大震災経験者、防災について一定の教育知識を持つ者で、1回30~100人のワークショップ、100~500人の講演・イベント等を年間100回以上実施しています。講演後、参加者の皆様に「この話を家族や友人に伝えたい」「すぐ行動にうつしたい」と思っただけの心に響くコンテンツは、あたらしい未来を拓く防災教育として、多数のメディアに取り上げていただいています。

【メディア掲載】朝日新聞、日経新聞、毎日新聞、NHK、TBSテレビ、日本テレビなど

講演

「小さな命の意味を考える」

講師：佐藤 敏郎（スマートアクションチーム特別講師）

宮城県石巻出身、元中学校教諭。東日本大震災で当時大川小学校6年の次女を亡くす。「命を最優先に考える」「未来の子ども達に何ができるか」をテーマに紡ぐ言葉は、参加者の皆様から「話を聞く前と後の自分は全く違う」との感想をいただいています。



ワークショップ

「防災ママカフェ」

講師：かもん まゆ（スマートアクションチーム特別講師）

「ママが知れば、備えれば、未来は変わる」を合言葉に、被災地ママの声と知恵が詰まった冊子を活用しながら、全国3800人以上のママにワークショップを開催。「私がやらなきゃと思えたのは初めて!」と高い支持をいただいています。



冊子提供

「津波から命を守るために」

大川小学校の教訓に学ぶQ&A

著者：西條 剛央（スマートサバイバープロジェクト代表理事）

推薦：片田 敏孝（群馬大学広域首都圏防災研究センター長）

再びやってくる津波により同じ悲劇が起きないように、74名の児童が死亡、行方不明となった大川小学校に関する研究をもとに作成した冊子です。これまで22万人以上の方々は無償で配布させていただきました。



スマートアクションについての詳細・お問合せ・お申込みは

■WEBサイト <http://sspj.jp/lecturer>

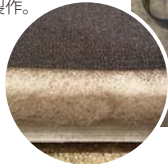
■Eメール info@sspj.jp



スマートプロテクター

「やさしく、つよく、うつくしい」日常と非常をつなぐ防具の開発

普段使いのトートバッグが、ファスナー1つで防災頭巾に。高い防災性が求められる海底油田基地用の特別素材で製作。



SSPJでは、「燃えない・濡れない・衝撃から守る」機能性と、「かっこいいから身に着けたい!」と思えるデザイン性を兼ね備えた、防災服・防災グッズの開発を行っています。日頃、好きだから身に着けているものが、いざという時に身を守るものであってほしい。そんな気持ちから作られる防具です。開発者はSSPJ副代表理事で、SEKAI NO OWARIの紅白歌合戦の衣装やジュビロ磐田の公式ウェアを手掛ける、ファッションブランドのプロデューサー・外所一石。

あたらしい未来を拓く 新プロジェクト

企業防災 コンサルタント

「スマートシェルタープロジェクト」

SSPJ顧問・アドバイザー：渡辺 実

(防災・危機管理ジャーナリスト/株式会社まちづくり計画研究所代表/技術士・防災士)

40年余にわたり防災・危機管理に向き合っている専門家がコンサルティング・アドバイスを行う防災プロジェクト。企業内にプロジェクトチームを作っていたり、専門家と協働で防災計画を作る中で、会社組織と社員の皆様が防災対策を「自分ごと」として捉える意識改革にもつながります。



紙芝居

「スターリマン紙芝居プロジェクト」

講師：はせがわファミリー（スターリマンからの贈りもの）

はせがわファミリー（父・いさお：絵、母・芳見：創作、娘・祐希：朗読）が行う、夢を叶える9つの風船を世界中に届ける「スターリマン」の紙芝居ライブ。これまで子供からご年配の方まで15,000人にライブを行い、1000冊以上の紙芝居をプレゼント。コミュニケーションアートを通して得られる人との温かいつながりが、ロコミで評判を呼んでいます。



フォーラム

「3.11を学びに変える ～あの日を語ろう、未来を語ろう」

講師：佐藤 敏郎、宮城県東松島市の高校生3名

小学5年生の時に被災した東北の高校生たちが、5年の歳月を経て語る3.11の記憶と未来への提言。震災経験のない高校生や大学生とのグループセッションも、「震災から何を学び、何を伝えていくか」を一緒に考えます。このフォーラムは『16歳の語り部』（ポプラ社）として書籍化もされています。

